

Welcome to 授業



教員から

大学における「学問のすすめ」

この「国際関係論」は、国際学部に入学者1年生全員が初めて学ぶ学部の授業です。大学における学問とは何か、国際学部でどのように学べばよいのか、といった疑問や不安を抱えて教室にやってくる学生たちに対応するために、まずは「大学において学ぶ」とは何かについて考えてもらうことから始めています。

最初の授業では、教員による講義は学習の「きっかけ」を提供するものであって、参考文献などを探しながら、自分で計画を立てて自由に課題を追究するという「自発的な学習」こそが、学問の醍醐味であると話しています。「先生がこう言ったから、、、」「教科書に書いてあったから、、、」ではなく、それらの情報を総合し、自分でも調べながら、「私は を根拠にこう考える」と言えるように、世界に目を向けつつ自分で考える力を鍛えてほしいのです。授業の方法も一方通行にならないように、学生が毎回記入するコメントシートに答えたり、参考文献を紹介しながら、問題意識を高めてもらうように工夫しています。

「戦争と平和」を軸に世界を学ぶ

授業で学ぶテーマは、要約すれば「戦争と平和」です。人類の歴史は戦争の歴史と言われるほど、多くの殺りくや破壊、収奪を繰り返してきました。ただ同時に、それらの悲惨な状況乗り越えようとする人々の働きが積み上げられてきたことも事実です。「国際関係論」という学問自体、第一次世界大戦という

大戦争の反省として誕生しました。再び戦争を起こさないために、国家と国家の間にどのように秩序をつくっていくかについて考える学問が必要である、と人びとは考えたのです。

戦争と平和をめぐるこうした営みは、国際的な政治や制度として現れているだけでなく、文学をはじめ音楽や絵画、人びとの生活様式や服装など、文化的な事象のなかにもみられます。学部にある国際社会学科、国際文化学科に共通する科目として、

社会的な現象とともに、岡本太郎やピカソ、エメ・セゼール、ソルジェニーツィン、ワーグナー、モーツァルト、魯迅など、文化的な現象との関わりも取りあげながら、宇都宮大学国際学部でしか学ぶことのできない独自の「国際関係論」にしたいと考えています。

国際学部講師 清水奈名子



学生から

私は、高校時代に世界史の授業を受けていたのですが、そのとき習った歴史を国際関係的な面から見つめ直すという点で、この授業を大変面白く感じています。受験用に単に年号や用語を覚えるだけでは見えてこなかった、国際体制や国際機構の仕組みなどを改めて発見することが多くあります。各国の関係やその歴史を学ぶこの授業は、これから広く世界のことを学ぶ上で、広い視野を持つためのきっかけになる大切な授業だと思います。

国際学部国際社会学科1年 棚内柚佳里

この授業は、毎回学生が書いたコメントシートの回答で始まります。先生は様々な面に触れながら、学生が書いた疑問に答えてくれます。それによって、学問の視野がさらに広がります。また、私は留学生なので、この授業を通して日本人の世界を見る角度や世界状況に対する意見も知ることができます。さらに、自分の国がどのように見られるのかもだんだんわかってきました。

国際学部国際文化学科1年 叶 金栄

